

## 「入社に当たって」からの知力測定結果

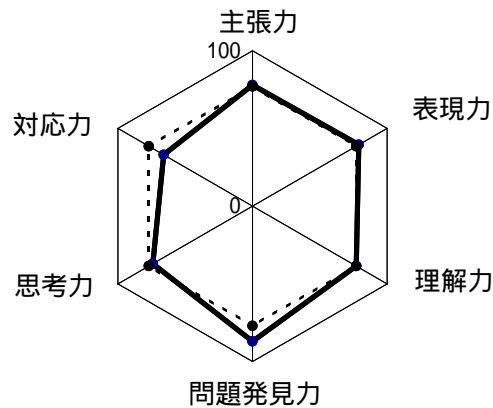
ID:

\*\*\*\*\* 殿

## 分析項目別評価点

	分析項目	評価点
1	主張力	78
2	表現力	79
3	理解力	77
4	問題発見力	87
5	思考力	74
6	対応力	66
平均点		77

## 分析項目別評価点グラフ



点線グラフの軸の目盛値は分析項目別評価点のあなたの平均点の値です

## あなたの書いた論文のキーワード群

出来る 営業 御客様 行く

## 知力スタイルの種類

白抜き文字のところがあなたのスタイルです

項目	あなたの知力スタイル				
表現系	自己主張型	<b>単純協調型</b>	分別重視型	主張押し付け型	周辺気配り型
把握系	命題確認型	事例検証型	<b>観察重視型</b>	命題追求型	論理重視型
分析系	周辺現象確認型	<b>現象重視型</b>	現象観察型	現象変化重視型	周辺現象探索型
思考系	複雑化傾向型	<b>単純化傾向型</b>	平衡感覚型	命題探求型	命題周辺重視型
応用系	性急拡大型	<b>実践反復型</b>	平衡感覚型	実践多様型	一点集中型

表現系 : 伝達の主体性、伝達する対象の意識の程度、語彙力から抽出  
 把握系 : 興味と観察の対象、対象への知識の量、複雑さ、認識程度から抽出  
 分析系 : 視点の対象感覚、命題、現象把握のバランスから抽出  
 思考系 : 考える構造、命題、事例、現象のウエイトの置き方から抽出  
 応用系 : 行動意識へのウエイト、性急さ、周辺の状況把握の程度から抽出

## あなたの特徴および検討ポイント

	あなたの特徴および検討内容	
主張力	命題に対しての絞り込みが曖昧になっています。主張は強く出ていますが、内容に貧弱さを感じられます。主張を構成している要素が不足しています。全体を整理し、その過不足を検討するようにしましょう。	
表現力	分かり易い表現の仕方をしてしています。しかし、主張している内容が単純で、表現が大仰になっています。主張する内容について、不足がないかを検討するようにしましょう。	
理解力	バランスの取れた観察をしています。見方も適切です。良い状態です。	
問題発見力	適切な気配りで観察をしています。そのポイント意識が小さくなっています。ポイント意識が、その全体を見る気配りを減少させています。あなたの問題に対するポイントを整理し、その過不足を検討しましょう。	
* 思考力	物事を単純化するようです。考え方には複雑さがあります。しかし、考えを進めて行くと単純化してしまう傾向にあり、考える要因を省略しています。考える過程で、その要因を忘れないようにするようにしましょう。	
* 対応力	やるべき事柄について強い意識を持っています。この意識に対して、周辺を把握することが甘くなっていて、対応そのものに緩慢さがあります。対応すべき順序を予め整理するようにしましょう。	

[ \* ] マークの付いている項目は特に注意していただきたいポイントです

## 知力スタイルの種類と傾向

網掛けの文字のところがあなたのスタイルです

表現系	自己主張型	言葉通り、自分を押し出していこうとする傾向が強くなっています。
	単純協調型	一見、主張は強く見えても、論拠が明快でないため、他に流される傾向があります。但し、強い主張性がある、この傾向を示しているときは他の意見を取り入れ易いという利点が発揮されることも多いようです。
	分別重視型	周りをよく見て、状況を判断しながら表現していく傾向があります。
	主張押し付け型	主張が強く現れ、自分の意見を通そうとする姿勢が出ています。
	周辺気配り型	自分を中心に置いて、周りを観察しながら、主張していく程度を測っている傾向があります。
把握系	命題確認型	条件を様々な角度から掘り下げていく傾向があり、問題を複雑にする傾向があります。
	事例検証型	検証する事例は多くても、その背景の探索が、事例に対して不足しています。問題提起をするだけで、解決提案を望まない場合は、適切な人材といえます。
	観察重視型	全体をバランスよく観察しています。自身が客観的な立場に立ちやすく、当事者になることを避ける性質があります。
	命題追求型	命題条件よりも、テーマに中心をおく傾向にあります。諸条件は最後の判断材料とし易く、テーマ性を独立して考えています。
	論理重視型	条件などに重きをおき、テーマの中心となるものを後にする傾向があります。結論よりも、論理に重きをおくようです。
分析系	周辺現象確認型	現象の状態、その中心となっているポイントに重きをおいています。全体のバランスよりも、ポイントを検索する習性があります。
	現象重視型	全体の現象バランスに重きをおき、テーマ性を重視していません。全体がまとまっていると、テーマが隠れていても注意を払わない傾向があります。
	現象観察型	テーマ性、現象把握、その要因をバランスよく見えています。一般的な結論、評価をし、当事者としての意識が薄い傾向にあります。
	現象変化重視型	現象を中心にみており、そのポイントをあまり重視していません。現象を読み取るどころから、自身でのテーマ性を発見する傾向が強いです。
	周辺現象探索型	全体のバランス、現象の表面を捉える傾向にありますが、現象の中心を探ろうとする姿勢がでています。但し、現象や状況を読み取るところは軽視する傾向にあります。
思考系	複雑化傾向型	テーマとテーマ要因を深く捉え、その範囲も広げがちです。大きな問題や、複雑な問題を解決するには適切ですが、単純な問題までも複雑にする傾向があります。
	単純化傾向型	全てを簡単にしようとする傾向がでています。全体の展開に重きをおき、テーマ抽出や、全体要因の「からみ」を簡素化する傾向にあります。
	平衡感覚型	全体のバランスをよく見ており、物事の進展度、テーマの抽出度、要因関係などを取捨選択しています。これらのバランスを重んじるようです。
	命題探求型	テーマポイントの量と全体の要因の量のバランスを重んじており、命題の簡潔さを重視しています。
	命題周辺重視型	全体の現象変化、命題の複雑さをみており、命題そのものよりも、その周辺の状況に視点がいく傾向にあります。
応用系	性急拡大型	相手に対して納得してもらうこと、論旨展開の早さ、などが性急であり、相手の状況を観察することを怠りがちです。何事も急ぎすぎの感があります。
	実践反復型	1つ1つの状況確認が全てに優先するようです。全体としてのんびりした感じがあり、自分のペースを守っています。
	平衡感覚型	よく聞き、条件を整えてから、一定のテンポで物事を進めていきます。進行のバランスを大切にしています。
	実践多様型	内容列記、説明重視、事例重視型で、前例が多くあることを求めているようです。
	一点集中型	性急な論旨と展開を望んでいるようですが、事例等は少なくともよく、条件変化がつかめれば満足できるようです。結果と変化を1つにまとめていくようです。